

元祖大師法然上人御法語

善尊の三縁の中の親縁を釈し給うに衆生仏を礼すれば仏これを見給う衆生仏を称うれば仏これを聞き給う衆生仏を念ずれば仏も衆生を念じ給う かるが故に阿弥陀仏の三業と行者の三業とこれこれ一つになりて仏も衆生も親子のごとくなる故に親縁と名づく候いぬれば御手に数珠を持たせ給いて候わば仏これを御覧候うべし 御心に念仏申すぞかしと思し食し候わば仏も行者を念じ給うべしされば仏に見えまいらせ念ぜられまいらする御身にてわたらせ給い候わんずるなりさは候えども常に御舌のはたらくべきにて候うなり三業相忘のためにて候うべし三業とは身と口と意とを申し候うなりしかも仏の本願の称名なるが故に声を本体とは思し食すべきにて候

為

令和 年 月 日

浄写